

令和5年度第1回鹿嶋市総合教育会議 会議録

日 時 令和6年1月25日(木) 13時30分～14時30分

場 所 鹿嶋市役所3階 会議室301

出席者 鹿嶋市長 田口 伸一
鹿嶋市教育委員会教育長 川村 等
同 教育長職務代理者 原 キミ
同 委員 大槻 啓子
同 委員 大崎 千帆
同 委員 岡田 淳

【オブザーバー】

鹿嶋市副市長 栗林 裕
政策企画部長 桐生 進一
教育委員会事務局部長 大須賀 規幸

【事務局】

政策企画部次長 鈴木 欽章
政策企画部政策推進課長 藤松 研
政策企画部政策推進課長補佐 茂垣 諭
政策企画部政策推進課主事 吉田 優作
教育委員会事務局次長 君和田 浩幸
教育委員会事務局次長 東峰 由美子
教育委員会教育指導担当参事兼教育指導課長 内野 武
教育委員会事務局総務就学課長 久保 美由紀
教育委員会事務局総務就学課長補佐 平山 麻由美

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事 鹿嶋市教育大綱の改訂について

委員)

- ・大綱は、5年よりも短い周期での見直しが必要。AIシンギュラリティに際しても、子どもたちが迷わないようすべき。

委員)

- ・大綱のスタートは令和6年度中の何時ごろか。

→事務局) 令和6年度の早い時期にスタートさせたい
大綱案について、後日意見をもらうようにしたい。

委員)

- ・子どもたちの教育活動においては、chromebookが普及するなど変化の速さを感じている。挑戦力など非認知的な能力を伸ばしていくことも重要。

委員)

- ・変化する時代に対応するためには、理数的な力や生きる力を身に着けることが重要。STEAM教育に世界中で力を入れているが、日本は遅れていてデジタル人材が不足しているので、その対策も重要。

委員)

- ・大綱では大枠を決めていただき、教育委員会ではその大枠を教育振興計画に落とし込み、施策として取組んでいきたい。

委員)

- ・変えてはならないものと変えていくべきものがある。日本人として、鹿嶋の人間として、地域愛などバックボーンとなる部分も踏まえてほしい。

委員)

- ・情報があふれる時代において、正しいものを選ぶことができる力は重要。

委員)

- ・AIをどう活用していくかなどを大綱に盛り込んでどうか。伝統や文化についても大事な要素である。挑戦する力の育成は重要になってくるので見直しで盛り込んでほしい。

委員)

- ・生きる力の育成については、これまでも文科省で謳われている。それをどう実現するかは地域性が出る。

市長)

- ・数字はあくまでも非認知的なものを誰でも理解できるようにするためのツールであって、数字ありきではない。
- ・大綱は、関係法を踏まえつつ、社会の変化に関する要素を加えて規定していく。
- ・AIを扱う人材、多様性を認め合える人材の育成は重要。
- ・大綱は、社会の変化に応じて変えるべきであって、期間を設けるものではないと

考えている。

以上